

# 琉球大学学術リポジトリ

教員一人ひとりが教養教育に参加することを提案します

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学教育センター 公開日: 2018-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新里, 里春 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/41698">http://hdl.handle.net/20.500.12000/41698</a>

# 教員一人ひとりが教養教育に参加することを提案します

新里里春（教育・学生支援担当副学長）

このたび教育・学生支援担当の副学長に就任した新里です。まずはよろしくお願いたします。すべての教員と学生が、それぞれの目的が達成できるよう支援体制を強化したいと考えています。

さて、大学教育センターは教養教育を始め本学教員のFDに係わる重要な役割を担っています。「FDは人の一生を左右する重要な課題」である、これが本文の主題です。

私は5月まで教員として、大学院で一科目、学部の専門教育二科目、教養（または教職）科目一科目、そして卒業研究、修論研究の科目を担当してきました。

過去10年間の、私の授業方法は、いわゆる学生同士、そして私と学生のインタラクティブのある方法をとってきました。専門用語では「構成的グループ・エンカウンター」方式といいます。私が学生にディスカッションの課題を与え、学生はその課題について自分の意見をまとめ、そして隣席の学生と、またはグループでディスカッションをして、その結果を報告します。

構成的グループ・エンカウンター方式を採用した理由は、学生の対人関係能力についての問題意識を持ったからです。対人関係能力（技能）は英語では social skills（社会的技能）であり、社会性の領域を扱っています。その向上を授業の目的の一つとしました。もう一つの理由は、テレビ文化にどっぷりと浸っている学生の集中力を90分間維持させることにありました。私のパフォーマンス力はそんなによくありませんので、これはとても効果的です。

さて、「FDは人の一生を左右する重要な課題」であるとの主題に戻します。私は大学の教養教育によって自分のキャリアがコペルニクスの転換をしました。

私は何の疑いもなく電気工学の専門家を目指して大学に入学し、そして教養教育を受けていました。その中の一つの講義で、

大学の講堂を埋め尽くす程の学生が受講する「有名教授」の授業を取り、元々旺盛な知的好奇心が心理学に集中しました。そしてその後、電気工学とは無関係な心理学の授業をさらに修得して、3年次には転学部転学科を果たして今日に至っています。

その教授のFDと私のFDには大きな違いがあります。どれだけの学生があ教授の影響を受けたか、あるいは私の影響を受けたかは知る由がありません。

現代の教授法には結構パワーポイントやDVDが用いられていて、ビジュアルな講義あるいは映像投影が増えました。そしてこれらの映像をふんだんに使った講義は、結構学生を引き付けます。

講義に使用する小道具も重要ですが、教員の何かが学生に影響力を行使します。教員が学生の「一生を左右する」程の影響を与える講義ができるには、研究に裏打ちされた「権威者の語る」重みではないでしょうか。「プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー」受賞教員の何名が「研究に裏打ちされた」講義をされたかは知りません。

私の知っている非常勤講師は、心理学の領域でありながら文献研究を中心にしていました。心理学は実学が基本であり、実験研究、調査研究、あるいは臨床研究に裏打ちされた内容でないと受講者に感動は与えないでしょう。

そこで、私の提案は、すべての教員が一年または二年に一コマの教養教育を担当して学生に感動を与えることです。その授業は全く専門的知識の無い学生の知的好奇心を煽り且つ満足させ、“一生を左右する”程の影響力を与えるものと信じています。

自己同一性が確立していない現代学生にとって、キャリア開発的要素の高い優れた教養教育は、とても重要だと考えます。そのためにも教員一人ひとりが教養教育を担当されることを提案し、ご挨拶とします。